

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「大塚だからできる！大塚は夢をかなえる！大塚からはばたけ！」～社会的自立、社会貢献のできる生徒を育てます～
生徒の第一希望をかなえる進学にも就職にも強い学校をめざします。
・普通科…多様な生徒の幅広い教育ニーズに応え、地域に根ざした学校
・体育科…競技力の向上と府民のスポーツの振興、発展の拠点校としての学校

2 中期的目標

1 確かな学力の向上

- (1) 生徒のニーズに応えた学習指導の充実を図る。
ア TT、少人数展開、習熟度別、ICT活用などによる生徒が満足できる授業を展開する。
イ 始業前学習や短期集中講座の実施により、基礎学力の定着をめざした学習を継続的にサポートする。
(2) 授業改善に積極的に取り組み、教員の授業力向上を図る。
ア 校内研究授業週間をベースに、教員相互の自主的な授業観察、授業評価を行う。
イ 生徒対象の授業評価、保護者の授業参観時の評価を授業力向上に繋げる。
※ 卒業アンケートで「3年間勉学に一生懸命取り組めた」と答える生徒（H25：64.4%）、「大塚で3年間学んで学力面で伸びた」と答える生徒（H25：55.7%）をそれぞれH27年度には70%とする。

2 志や夢のはぐくみ

- (1) 生徒が自分の意志と責任で進路を選択できるようにガイダンス機能（的確な情報提供・進路HR・進路相談）の充実を図る。
※ 進路面で「第1希望をかなえることができた」と答える生徒（H24：61.6% H25：61.6%）をH27年度には70%とする。
(2) 大学等の進学情報を収集・提供するとともに、大学見学会やオープンキャンパス等に生徒・保護者が積極的に参加できる機会を設ける。
(3) 3年間見通した継続的、系統的な進路講習を整備し全校的に計画的に実施する。
※ 大学進学率（H25：35.6%）をH27年度には50%、センター試験受験者（H25：29名）50名以上をめざす。
(4) 「実践的キャリア教育・職業教育支援事業」により構築された支援体制を維持・継続させる。
※ 就職内定率100%（H25：100%）を継続する。

3 豊かな心と社会性の育成

- (1) 「あたりまえのこと（挨拶・時間厳守・ルールやマナーの遵守）をあたりまえに」を合言葉に規律規範の確立に努める。
ア 生徒全員が明るく大きな声であいさつのできる学校を維持・発展させる。
※ 遅刻総数（教務遅刻）（H25：1251件）1,000件以内とする。
イ 教育相談体制を整備・充実し、生徒たちの心のケアに努め、安心安全な学校づくりを推進する。
ウ 生徒状況の把握と保護者との緊密な連携を図るため、全生徒について保護者との三者面談を実施する。
エ 保健部、人権委員会、学年が連携したケース会議を効果的に運用する。
オ 学校行事（大塚祭）の充実及び部活動の充実を図る。
※ 普通科生徒の部活動への参加を積極的に推進し、部活動加入率をH27年度には70%以上とする。

4 体育・スポーツの拠点校としての発展と地域交流の促進（開かれた学校づくり）

- (1) 活発な部活動と体育科の専門性を活かし、広く府民の体育・スポーツの振興発展を目標に、地元小学校や中学校を中心としたスポーツ交流やボランティア活動を推進する。また、2020年東京オリンピック出場をめざし、府民に夢と感動を与えられるようなトップアスリートを育成する。
ア 松原市の地元小学校と連携した「ふれあい大塚スポーツ教室」を継続実施する。
イ 地元中学校の運動部との連携と交流を促進する。
(2) 松原市におけるスポーツ関連事業等に積極的に参加し、地域交流・地域貢献を推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の向上	授業力向上の取組みと生徒の学習意欲を高める取組みの充実 ア ICT を活用した授業の推進 イ 授業研究の推進 ウ 学習意欲の向上	ア・ICT を活用した研究授業を実施し、さらに魅力ある授業への取組を推進する。 イ・学習指導部の取組みとして、研究授業週間を1・2学期に設定し、全教科で研究授業を実施する。 ・授業アンケートの結果を授業力向上委員会において分析することにより各教員の授業改善を進める。 ・初任1・2年目の教員を対象とした校内研修を充実させる。 ・府立摂津高校体育科との連携と交流を促進するとともに、「体育科教員指導支援事業」の効果的活用により「教科体育」の指導力向上を図る。 ウ・始業前学習の充実を図る。 ・成績不振者を対象にした短期集中講座を実施する。 ・校内における自学自習習慣を確立させる。	ア・授業にICTを活用する教員の率を30%以上に高める。 イ・授業相互見学を年間2回実施し、実施率を70%以上に高める。 ・学校教育自己診断において、「授業は工夫されていてわかりやすい」という生徒の回答率を70%以上とする。 ・初任者校内研修を、各学期に実施する。 ・授業アンケートにおいて、体育授業における「生徒意識」の項目での肯定的回答率を80%以上とする。 ウ・始業前学習を週3回実施する。 ・短期集中講座を各学期に実施する。 ・学校教育自己診断において「意欲的に取り組んでいる」という生徒の回答を75%以上とする。 ・自習スペースの確保と整備を行う。	
2 志や夢のはぐくみ	将来の夢の実現に向けた取組みの充実 ア 進学講習の推進 イ 進学支援の充実 ウ キャリア教育の推進	ア・教育産業等と連携した土曜進学講習を計画実施する。 ・高大連携による進学や部活動の活性化に向けた事業を展開する。 イ・進路別授業・演習を2年次より実施する。 ・企業・大学見学会を1、2年生対象に実施する。 ・2年生を対象に冬季勉強集中講座を実施する。(2、3年対象のセンター入試受験直前集中講座を含む) ウ・3年間実施した「実践的キャリア教育・職業教育支援事業」によって構築された校内支援体制の維持・継続を推進し、就職内定率の安定化を図る。	ア・土曜進学講習を、夏・冬期に各20名以上の参加で実施する。 ・複数の大学と高大連携事業を促進し、進学実績の向上と部活動の活性化を図る。 イ・希望者別の企業・大学見学会を1、2年次において実施する。 ・私立大学と連携した勉強集中講座に20名以上参加させる。 ・センター入試受験者50名以上、国公立大学合格者10名以上、難関私立大学合格者10%アップをめざす。 ・卒業生アンケートの「第1希望をかなえることができた」と回答した率を70%以上とする。 ウ・就職内定率100%を維持する。 ・警察、消防、自衛隊等の公務員試験合格者数を15名以上とする。	
3 豊かな心と社会性の育成	規律・規範意識の確立と部活動の活性化 ア 基本的生活習慣の徹底 イ 部活動の推進 ウ 教育相談体制の充実 エ 体罰根絶に向けた取組の充実	ア・早朝立ち番指導(挨拶と自転車指導、遅刻指導)を継続徹底する。 イ・普通科生徒の部活動入部を促進する。 ウ・教育相談室の有効活用を促進する。 ・人権学習の内容充実を図り、生徒・教職員の人権意識の高揚を図る。 エ・教職員に対する体罰根絶に向けた校内研修を充実させ、正しい部活動指導の在り方について意識高揚を図る。	ア・遅刻者数1,000件以下をめざす。 ・学校教育自己診断において、「日常のあいさつをきちんとできている。」という回答率を95%以上とする。 イ・普通科の部活動入部率を60%以上とする。 ウ・学校教育自己診断において、教育相談に対する肯定的回答を60%以上とする。 ・学校教育自己診断において「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」という回答率を80%以上とする。 ・人権学習の生徒アンケートにおいて「理解を深められた。」とする肯定回答率を70%以上とする。 エ・府の指導者研修参加者による伝達講習を含む校内研修を年間2回以上実施する。	

<p>4 体育・スポーツの拠点校としての発展と地域交流の促進</p>	<p>競技力の向上とスポーツ拠点校としての取組みの強化 ア 競技力向上のためのスポーツ環境の整備 イ 地域スポーツの普及・振興 ウ 地域交流・地域貢献の推進 エ 学校広報の充実</p>	<p>ア・さらなる競技力向上にむけ、ソフト・ハード面での充実を図る。 イ・地元小学生対象の「ふれあい大塚スポーツ教室」の充実発展及び地元中学校運動部との連携と交流を推進する。 ウ・地域交流としてスポーツ関連事業や市民文化活動、地域フェスタに積極的に参加して地域交流、地域貢献を進める。 エ・総務部を中心に学校説明会、中学校訪問、学校ホームページの充実などを促進する。</p>	<p>ア・施設設備の充実と人的配置の効率化を推進する。 ・スポーツ講演会、スーパーインストラクター招へい事業のさらなる充実を図り、生徒対象のアンケートにおける満足度を70%以上とする。 イ・「ふれあい大塚スポーツ教室」の種目増と120名以上の参加者を募るとともに、地元中学校運動部への訪問等(年間3回程度)を行う。 ウ・学校教育自己診断で、「授業や部活動を通じて、小中学校、地域の方々と交流する機会がある」と回答する率を50%以上とする。 エ・学校説明会(年間4回実施)の内容を充実させ、参加者の10%アップをめざす。 ・中学校訪問を全教員が分担して実施し、訪問エリアの拡充を図る。 ・学校ホームページの充実とリアルタイムでの更新に努め、アクセス数の20%アップを図る。</p>	
--	--	--	--	--